

生活科の探検活動で大切にしたいこと



子どものドキドキ、ワクワク感を大切に！

生活科の探検活動を取り入れた学習（単元）は、1年生で学校探検や公園探検を行い、2年生で町（地域）探検を行います。どれも繰り返し教室から出て活動を行います。

子どもが、「今日は探検がある日だ！（楽しみだな）」と期待していることが何より大切です。教師にとっては、「いつも見ている場所」かもしれませんが、子どもにとっては、「何かひみつがあるかもしれない場所」であり、「（考えもしなかった）すごい発見が待っている場所」、と思っているのです。

子どもの思いや願いを大切にして、満足感や達成感を味わえるような活動を教師は工夫し、「どこで」「何に目を向け」「どんな活動をするか」計画を立てます。



教師の関わりを大切に！

子どもは、この学習で、「探検に意欲・関心をもつ」→「計画を立てる」→「探検する」→「振り返る（表現する）」→「共有して伝える（発表する）」→「次の探検の意欲をもつ」という動きをします。探検活動を取り入れた学習（単元）に学ぶ意味をもたせるように、意図的な教師の関わりが必要です。

例えば、学校や公園、店や施設に行く場面では、「見たことのないものやひみつを発見した！」という意欲を引き出すことが何よりも大切です。教師の関わりとしては、視点をもたせたり、子どもの気づきを価値付けたりします。

また、「（学校や公園にいる先生やお兄さんお姉さん、または店や施設、地域の人に）聞くと、よく分かった。ひみつが増えた。もっと、聞いてみたくなった（調べてみたくなった）。」と気付かせることも必要です。探検してきたことを交流、発表する場では、「誰に」「どうやって」「分かりやすく」伝えるか、ポイントを具体的に示します。

特に「見えているのに、よく観ていないものや人」に気付かせます。



人との出会いの場をつくる！

人との出会いは、子どもは様々な良い学びをします。まず、知らなかったことを新たに知ることができ、他にも知りたい、もっと知りたいと興味がどんどんわいてきます。そして、知ることの楽しさを実感します。次に、出会った人に親しみをもったり仲良くなったりします。子どもにとって友達が増えたというような喜びがありますし、世界が広がるように感じます。そして、また会いたくなります。これが大切なのです。「学校や地域にいる人は優しい。」と知り、「自分も〇〇さんのように優しくなりたい。」と思うことや「していただいたことに、お返し（挨拶、言葉や会話、手紙、再訪問）をしよう。」と、人として大切な行いに気付いていくのです。

そのためには、身に付けたいスキルがあります。挨拶の仕方や話し掛け方、聞き取り（インタビュー）の仕方です。これらは学年や教科を問わず必要なスキルですし、学校外でも今後生活していくうえで大切な行いです。

ですから、「どのように」「誰と」出会う場をつくるかが大切なポイントです。



交流の場と価値付けで、表現力を高める！

探検後の表現活動も大切です。活動を振り返り、体験したことや得た情報を整理し、様々な手法で表すことは、学びの連続・発展という視点からも大切なことです。そのためには、よく観たい、かきたくてたまらないという思いを生む「観る・かく」視点の設定やカードの工夫、子どもの心をくすぐるような言葉掛けなど、様々な関わりが重要と考えられます。

また、かいたり記録したりしたことを交流する場も大切にします。友達の発見を共感的に受け止める雰囲気をつくること、「よかったこと」や「こうしたら、もっとよくなること」を相互評価することも、子どもが気付きの質を高めるために効果的です。

教師の言葉やカードに書くコメントは、子どもが気付いていなかった活動のよさを価値付けたり、次の意欲を引き出したりするので、特に重要です。

子どもの表現力を高めるには、場の設定と教師の働きかけがポイントです。



教師の関わりを想定し、子どもの気づきを捉える！

探検に行く場所や活動、そこで出会う人を見通して、期待する子どもの姿や気づきと、それを引き出す教師の関わりを想定しておく、効果的な価値付けが可能となります。

| (1年) 探検 (2年) | | | 主な教師の関わり |
|--|--|--|---|
| 学校 公園 意欲 付け 計画 探検① 記録 表現① 計画 探検② 記録 表現② 思いや願いの実現 振り返り | | | ○探検に行く場所の魅力を伝える（写真など、効果的な提示の工夫）。 |
| | | | ○小グループをつくる（配慮児童を考えて構成）。 |
| | | | ○一人一人の思いや願いが探検の中で実現できるよう、グループに関わり調整する。 |
| | | | ○探検の視点を明らかにする。 |
| | | | ○一緒に探検し、活動の様子を見取る（安全配慮）。 |
| | | | ○探検中や探検後の発見や気づきを見取る。 |
| | | | ○カードや付箋を用いて、感想だけでなくよさや気づきなどを引き出したり、価値付けたりする。 |
| | | | ○「もの」から「人」へ着目するよう関わる。 |
| | | | ○一緒に探検し、活動の様子を見取る（安全配慮）。 |
| | | | ○表現①からの「疑問点」「人とのふれあい」「新発見」「気づき」を見取る。 |
| | | | ○表現の工夫（伝える人のことを意識したり、伝える方法や落としてはならない内容を決めたり）ができるように関わる。 |
| | | | ○場所や施設への関わり方や魅力、人の行いや優しさに気付かせ、今後の生活に活かすよう促す。 |

- 授業の初めや終わりに、カードや付箋からよいものを紹介する。
- 活動や気づきのよさを全体に伝えたり、交流を促したりする。
- 書き終えた子ども同士で、カードを見せ合う。
- 子どもの注意を引く場所にカードやマップを掲示する。



探検を成功させるため、あれこれ！

探検が成功するためのポイントです。

| 探検までの事前準備 | |
|---------------------------------------|---|
| 教師が学習のねらいや目標をはっきりもつ | ○「理科室や音楽室で発見してほしい」「集会所には優しいお年寄りが集まっている。子どもと関わらせたい」など、どんな学習を進めると子どもが育つかを考える。 |
| 探検する場所や施設の下見をし、見学先には学習のねらいや内容を伝え、打診する | ○地域探検では、相手と「希望する日時」、「児童数（予想できるグループ数）」、「探検時間や内容」を明らかにし、打合せをする。 |
| 探検場所や見学先を決定する | ○「子どもの思いや願いから出た見学先」と「教師が意図的に学ばせたい見学先」がある。「探検可能か（探検ルート of 安全面、受け入れ可能か）」 *「実施回数と時間帯が適しているか」を考慮し、決定する。 |
| グループのメンバーを決める | ○4～6人が活動しやすい。 ○配慮が必要な子の学びを支えるにはどうするか考える。その保護者と事前に相談をする。 |
| 校内の調整 | ○教頭先生などに日程や内容を伝える。 |
| 保護者の支援 (が可能な) | ○交通ルール遵守やマナー違反を一緒に見る。 |
| 事前指導をする | ○「5分前行動」など時間を意識させる。 ○「信号が赤点滅した」時の行動など、確認する。 ○集合ができる。 ○転んで擦過傷の時は、水で洗う。 *これらは生活科の時間以外でも指導できる。 |
| 探検当日 | |
| 当日の持ち物 | 学校帽子、探検用バッグ、鉛筆数本、水筒、時計、行動しやすい服装と靴、ハンカチ (デジタルカメラ) |